



四季の変化に富んでいる日本では、それぞれの季節独特の匂いがあります。春には真新しい教科書の匂いがあります。大人になって学校から遠ざかっても、4月になるとふとその匂いが記憶の中でよみがえることがありますね。今号では幕末と明治初期に用いられた教科書の内容をご紹介します。(「古民家だより」No.28もご参照下さい。)

## 模索と試行のエネルギー

### 明治初期の教科書

わが国最初の近代教育の指針を定めた「学制」が公布されたのは明治5年(1872年)で、この制度はその後明治12年(1879年)の「教育令」、翌年の「改正教育令」が出されるまで運用されました。

### 「学制」期の下等小学の教科

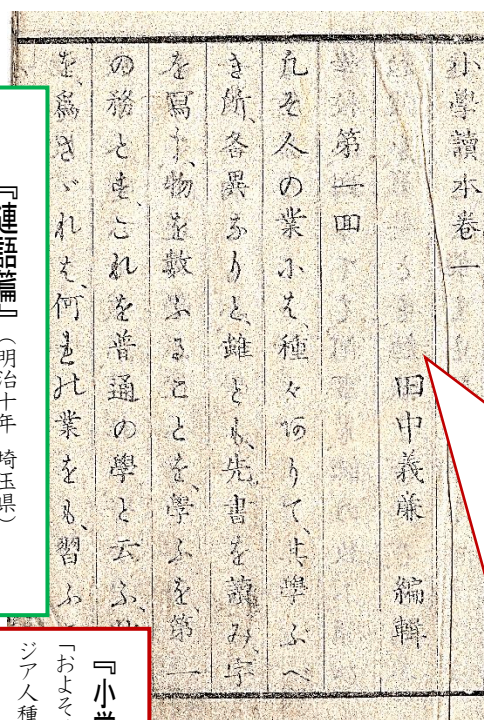
下等小学は6歳児が第8、7級。7歳児が第6、5級。8歳児が第4、3級。9歳児が第2、1級に分けられていました。一つの級は6か月間です。当時の教科は読物、習字、書取、作文、復読、算術、問答、体操の8教科でした。「問答」という教科は、理科、地理、歴史、修身(今の道徳)を含んだものです。(文科省資料より)

### これが小学生の内容?!

この間に使用された教科書をいくつか紹介します。いずれも越谷市蔵の史料です。



「連語篇」(明治十年 埼玉県)  
国語初歩の教科書で、基本的単語を用いて日常生活に必要な文にしています。六、九歳用と思われる。左ページ冒頭に「月日は天に耀き」とあります。



「小学讀本 卷一」(明治十年)  
下等小学第七級(六歳児)の教科書です。「およそ人の業(こと)行為。または行為がもたらす結果。」には種々あつて、学(まな)ぶべき所はそれぞれ異なるが、まず書を読み、字を写し、物を数えることが勉学の第一である。」とあります。田中義廉は長野の士族で、戊辰戦争の折、上野彰義隊に参加した人でした。



「小学讀本 卷一」(明治七年)  
「およそ地球上の人種は五つに分かれている。アジア人種、ヨーロッパ人種、マレー人種、アメリカ人種である。」とあります。「鎖国で閉じこもっていた日本人の心に新鮮に響き、酒屋や魚屋の小僧さんまで口にしたほど人気の教科書でした」と、企画展「開化期の教科書」図録(三重大学付属図書館 平成二六年)にあります。

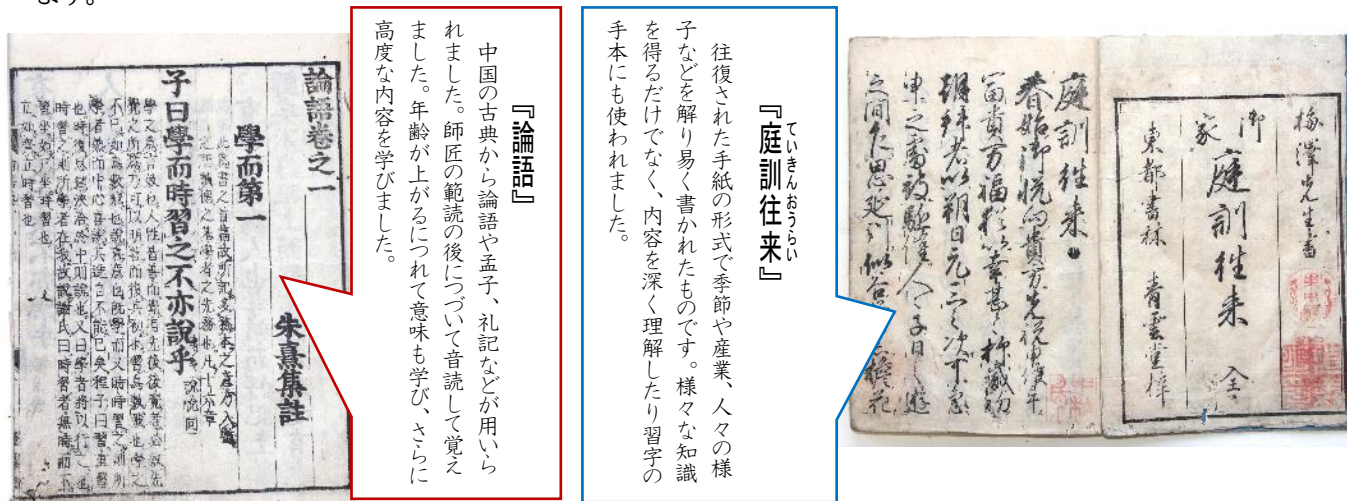


「埼玉縣地誌略」(明治十年)  
年(徳江橋眺望(現在の吉川橋))  
七歳頃の児童用の教科書挿絵。

6~9歳の学童が学ぶ内容としては、随分と難しいように感じますね。どうしてこのような内容になったのでしょうか……そのことを考察する前に、このような近代教育制度が発足する以前の近世末期の人々の学校と学習内容をみてみましょう。

# 幕末の寺子屋の教科書

支配者であった武士の教育機関は、幕府の学校として昌平坂学問所(昌平黌)、大名の領地では藩校が設けられていましたが、庶民の教育機関として各地で発展したのは寺子屋でした。市域には万延・文久年間～明治5年(1860～1872年)、その師匠が16人いました。(「埼玉県教育史」による)これらの寺子屋で使われていた教科書が残っています。

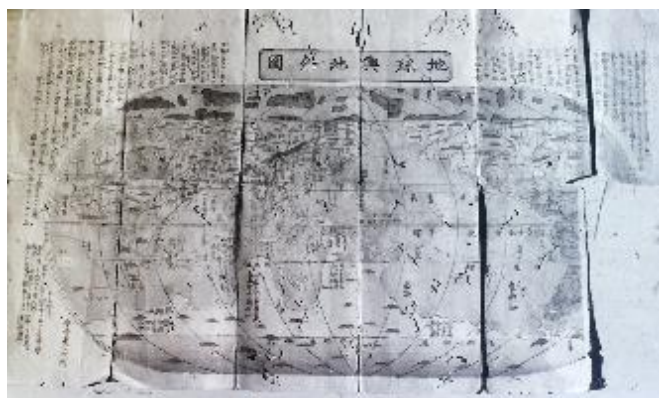


『論語』  
中国の古典から論語や孟子、礼記などが用いられました。師匠の範読の後について音読して覚えさせました。年齢が上がるにつれて意味も学び、さらに高度な内容を学びました。

『庭訓往来』  
ていきんおうらい  
往復された手紙の形式で季節や産業、人々の様子などを解り易く書かれたものです。様々な知識を得るだけでなく、内容を深く理解したり習字の手本にも使われました。

寺子屋の師匠には僧侶、医師、武士のほかに名主層の庶民もいました。寺子＝生徒には異年齢の子供がいて、個々の習熟に応じて師匠が勉強を授けたので、幕末期の庶民の識字率は高かったようです。ここに掲げた教科書の内容まで習熟する子どもも少なくなかったと思われます。

師匠となったある名主は右のような地図を持っていた。これはどういうことを表しているのでしょうか……これは幕末に作成された世界地図です。この人は激動する幕末期にあって、自分の生きている社会がどういう状況にあるのか、これからどうなっていくのかということに強い関心を持っていたのでしょうか。そしてこれからの世の中に生きていく子供たちに多くの知識とそれに基づいた学問が必要だと考えていたのではないのでしょうか。



## 改革への情熱とエネルギー

このような背景のもとに先述の学制期の教科書が編み出されたのですが、その作成や選定には多々苦労があったようです。左の史料をご覧ください。これは明治10年(1877年)発行の『小学読本 巻一』前書です。おおよそ次のような内容です。著者・田中義廉の言葉です。



私は師範学校創設に際して、小学教科書が本当に乏しいことに苦しんだ。急いで「小学読本」を編集して生徒に授けたので、内容が整然としていない。家の雇人で試してみると前よりはよくなったようなので、再度仕直して世に出して、少しでも教育の助けとしたいと思う。

学制期、教育内容について盛んに模索や試行錯誤が行われた様子が垣間見られます。しかし明治12年になると学制は廃止されて、新たに教育令が施行されます。制度と実態の差が大きかったこと以外に、西南戦争(1877年)、琉球処分(1879年)、国会期成同盟結成(1880年)、自由党結成(1881年)など、政府にとって大きな課題がもち上がってきたこともその要因でした。やがて教科書は模索・試行錯誤の段階から検定、国定の段階に入っていきます。

琉球処分(1879年)、国会期成同盟結成(1880年)、自由党結成(1881年)など、政府にとって大きな課題がもち上がってきたこともその要因でした。やがて教科書は模索・試行錯誤の段階から検定、国定の段階に入っていきます。